

平成28年度 農林水産常任委員会管外視察の概要

■視察日 平成28年10月11日(火)～13日(木)

■視察者 農林水産常任委員(7名)
高野洋介(委員長)、早田順一(副委員長)、村上寅美、
西 聖一、楠本千秋、松野明美、吉田孝平

■視察先等

- ①銚子市漁業協同組合 ②国立研究開発法人森林総合研究所
③お菓子な郷推進協議会 ④農林水産省

■視察趣旨 水産物のブランド化、森林資源の活用等、中山間地域の活性化策、平成28年熊本地震への対応等について視察し、関係者と意見を交えることにより、今後の委員会審議の参考とすることを目的として、今回の視察を実施。

■視察の概要

①銚子市漁業協同組合

銚子つりきんめを初めとするブランド化への取組み等について説明を受け、意見交換を行った。

千葉ブランド水産認定制度は、県が千葉ブランド水産物を重点的にPRし、千葉の魚全体のイメージアップを図ることを目的に平成18年度から実施している事業。

きんめだいは水深200m以上の深海に住む魚であり、1尾ずつ丁寧に釣り上げられていることから「銚子つりきんめ」と名付けられた。

平成5年に漁業協定を結んで資源管理を行い、漁獲量を制限する中、付加価値を向上させる取組みを行ってきたとのこと。



②(国研)森林総合研究所

森林資源の活用等について参考とするため、当研究所の視察を行った。

木材の主要成分はリグニン(25～35%)、セルロース(40～50%)、セミセルロース(20～25%)。

セルロースは木材の引っ張りに対する強さやしなやかさを担っており、紙パルプの原料となるもの。比重は鉄の1/5、強度は鉄の5倍。

リグニンとは紙パルプを作るときの廃棄物で、プラスチックに似た性質を持ち、自動車用部材などに使用され始めている。

セミセルロースは、セルロースとリグニンを結びつける役目を担っている。

木材が多くある中山間地に工場を作れば、地域振興にもつながる。森林に眠る宝を最大限に活用し、今までにない新産業を生み出す可能性があるとのこと。



③お菓子な郷推進協議会

中山間地域の活性化策として、カエデからメイプルシロップを生産して活用する取組みなどについて説明を受け、意見交換を行った。

商品に付加価値をつけるため、モンドセレクションの申請を行った。モンドセレクション受賞の商品は、受賞前と後では売上が30倍は違う。

メイプルシロップを使ったサイダーを1本160円で販売し、内10円はカエデの環境保持のため県や市に寄付を行っている。これまで7万本売れ、70万円程度の寄付になる。

樹液の採取(シルバー人材)→加工委託(加工所)→加工(菓子製造業者)→流通(お菓子な郷)と地域でうまく役割分担ができている。

地産地消、地産東消(東京)、地産全消(全国)へ展開。

「もの」を売るのではなく、「物語」を売る。背景、バックステージを消費者にどう訴えていくかが重要となってくるとのこと。



④農林水産省

平成28年熊本地震への対応について、意見交換を行うため、農林水産省を訪問した。

まず高野委員長から、震災後の農林水産省の対応についてお礼の言葉があり、現状の情報交換や今後の対応等について意見交換を行った。

